

成蹊大学

～ VODを組み込んだ語学教育用 e - ラーニングシステム ～

成蹊大学では、映像・音声による発音練習と小テストの実施、学生個々の学習履歴把握などの機能を統合した e - ラーニングシステムを構築し、主としてCALL教室で実施する語学教育の授業および事前事後学習に活用しており、学習の成果は平常点に組み入れている。

1 . e - ラーニングの実施目的 :

- ・ネットワークを介した学生との質疑応答などインタラクティブ性を確保するため
- ・小テストなどによる学習履歴の把握や学習進度に応じた課題提示など自学自習支援のため

2 . e - ラーニングの実施規模

実施の規模 全学的に実施
 e - ラーニングを活用する科目数 . . . 10科目
 対象となる学生数 300人

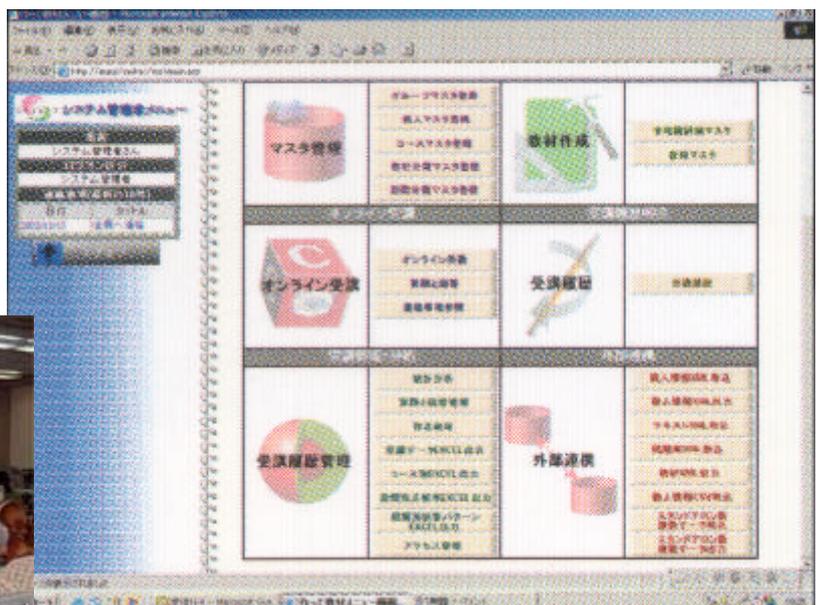
3 . 授業での位置付け

- (1) 授業中に e - ラーニングを実施し、授業時間内に終了できなかった学生は自習室で行う。
- (2) 結果の評価は平常点に組み入れている
- (3) 2005 年度からは e - ラーニングだけで単位が修得できる科目を計画中

4 . 代表的な授業科目での活用内容

- (1) 科目名 『英語 1 C』
- (2) 受講学生数 283人
- (3) 具体的な活用状況

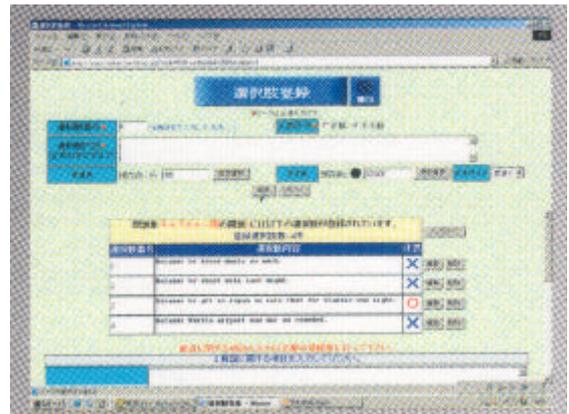
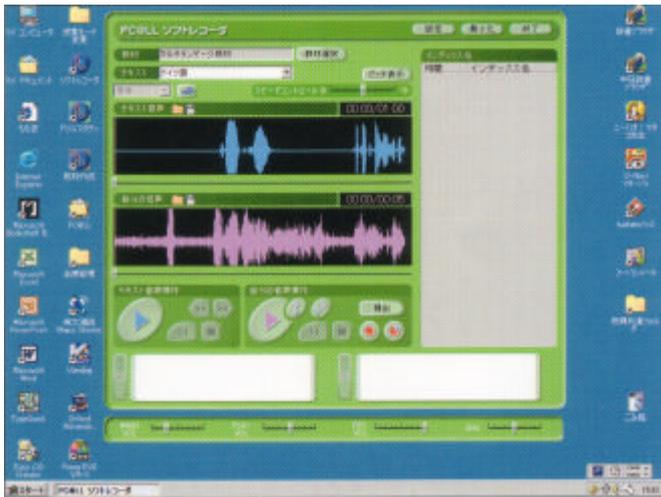
授業中に e - ラーニングを実施し、授業時間内に終了できなかった学生は自習室で行う。
 結果の評価は平常点に組み入れている。



5 . e - ラーニングの活用により期待している効果

メリットとしては、その場ですぐテスト結果が分かるので間違えた点を学生自身が修正できて、自己診断が可能になることがあげられる。また、学生が自分のペースで勉強できるので学習意欲の向上につながることである。

一方、デメリットとしては、教材作成のためのコンテンツのアレンジ・デジタル化にかかる作業負担が大きいことである。



6 . 大学の支援内容

現在は、教員向けに以下の支援を実施している。

障害対応や機器サポートの専門部署を設置している。
教員の負荷軽減のため、学生 T A に教材作成を依頼している。

7 . 今後の方針、拡大・改善の計画

教材の拡大と多様な授業への取り入れを目指しており、以下の方針による拡大を計画之中である。

C A L L 教室を 1 教室増やして 2 教室にする。

学内の情報教育用施設からもアクセス可能にする。

語学用に特化しているので、一般用にカスタマイズする。

《問い合わせ先》

成蹊大学 学園情報センター情報システム課 主査 石川 吉光 氏
TEL: 0422-37-3546